

【共通】汎用的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

到達目標の詳細は、「キャンパスライフハンドブック」を参照。

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

| 【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性) | マイルストーン | | | キャップストーン Level 4 |
|--|---|---|--|--|
| | ベンチマーク Level 1 | Level 2 | Level 3 | |
| <p>1) 自己意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。</p> <p>① 自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。</p> <p>② 相手の意見を丁寧に聴き、意見の違いや立場の違いを理解して協調した対応ができる。</p> | <p>小グループの活動のなかで、十分ではないが自分の思いや考えを伝えようとする。相手の背景や立場にたった理解や、話すときの表現を工夫するまで至らないが、意見をきちんと傾聴することはできる。</p> | <p>小グループの活動のなかで、自分の考えを伝え、また相手との違いを理解することができる。自らの発言の責任と、相手に配慮して協調した対応は少しはできる。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えよう努めている。</p> | <p>集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する態度がとれ、自分の発言や行動に責任を伴うことについて十分でないが理解できている。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。</p> | <p>授業内外の組織・集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する態度がとれ、また自分の発言や行動に責任を伴うことを理解したうえで、主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。</p> |
| <p>2) 社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもつことができる。</p> <p>① 自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下での対応ができる。</p> <p>② 社会のルールや人との約束を守って社会の一員として責任を持って立ち居振る舞い対応ができる。</p> | <p>関連法令を理解し遵守している。人との約束などについて守る程度は守れている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識しはじめたところである。</p> | <p>関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて守るよう努めている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることをある程度認識、理解でき、一部は実際に責任を持った行動がとれる。</p> | <p>関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて守るよう努めている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。</p> | <p>関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて、十分なコミュニケーションを図ったうえで、きちんと守っている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。変化に対する社会環境に対して世界的視点と備え、自己の良心に基づいて社会規範に沿った責任行動がとれる。</p> |
| <p>3) 将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。</p> <p>① 社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。</p> <p>② ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。</p> <p>③ 自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。</p> | <p>日常生活の基本的な管理はできており、社会規範に沿った自己のライフスタイルについて考え始めている。自分のストレスを察知し、十分でないが、これ以上蓄積しないよう行動することができる。授業で要求されることの先を考え、知識を自立的に追及することに興味を持つことができる。学習内容や日常の出来事について、過去の学修・経験を浅いレベルで再検討できる。</p> | <p>日常生活の習慣、健康維持をある程度管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできる。普段に自分のストレス発生源を意識し、様々な状況下で変化するための対処はでき、自分に合った方法で解消している。授業で要求されること以上に、関係する知識を追求し、自立的に学習経験を追及することに興味をもてる。学習内容や日常の出来事について、以前よりいかに広い見方ができ、過去の学修・経験をある程度の深さで再検討できる。</p> | <p>日常生活の習慣、健康維持を積極的に管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできている。普段に自分のストレス発生源を意識しており、自分に合った方法で解消しており、変化する環境のなかで生じるストレスへのある程度の対処できている。授業で追求されること以上に、しっかりと付加的な知識を追求し、自立的な教育経験を能動的に追及する。教育的・日常的出来事について以前より広い見方を示し、過去の学修・経験を深いレベルで再検討している。</p> | <p>日常生活の習慣、健康を維持・向上させるために積極的に、かつ計画的継続的に管理しており、社会規範に沿って自己のライフスタイルをイメージできている。普段のストレスや変化する環境の中で生じるストレスの発生源を意図的に把握しており、自分に合った方法で解消または上手に付き合うことで自己管理している。教育的な興味と追及は、授業で要求されること以外にもあり、自発的に学習している。過去の学修・経験を深く振り返って、教育的・日常的出来事について見方を広げ、将来の目標や計画に向けて、長期間にわたって知識や経験を自立的に追及している。</p> |
| 【教養ある社会人としての基礎力】(知識・理解) | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン | | キャップストーン Level 4 |
| <p>1) 人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めることができる。</p> <p>① 人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。</p> <p>② 多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 60%以上ある。1科目以上の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。実際の認識は浅いと思うが、物事に多面的な関係性があることは分かる。他者の文化的背景を踏まえた言動はほとんどできていないと感じる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 70%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会との関係性がある程度は分かるので、授業以外で学修内容を日中で少しは使用することができる。物事の多面性と多様な関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに少しは気付くことができるので、少しは考えて他者への言動の配慮ができる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 80%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、その授業以外に、専門とする分野や社会生活との関連性を把握できている。関連する事柄に対する言動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面性と関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきが理解できるので、他者への言動の配慮ができる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 90%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、その授業以外に、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。関連する事柄に対する言動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面的な関係性があること、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに気づき、他者への言動の配慮や働きかけができる。人間性の更なる理解を深めるために自ら学びを深めており、日常に活かしている。</p> |
| <p>2) 社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解認識を深めることができる。</p> <p>① 社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。</p> <p>② 自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する内容を学修している。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。</p> <p>自然や社会的現象について、情報が意味するものとは関連した解釈・結論を導くこともあるが、数学的形式の情報説明を試みている。結論にまで結びついてはいるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用している。単純な情報の変換は完遂できる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する内容を学修している。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。身に付けた学修内容は、専門分野や社会生活との関連性があること、自然や社会的現象について、情報が意味するものとは関連した解釈・結論を導くこともあるが、数学的形式の情報説明を試みている。結論にまで結びついてはいるが、データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用し、結論を導き出すことができる。情報の変換を完遂でき、その結果である科学・数学的表現はある程度は正確に使用できる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。複数科目から社会科学・自然科学に関する知識の修得をこなしている。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。物事に多面的な関係性があることを認識し、学んでいない他の領域への関心が少なからずあり、自ら部分的に理解を深めている。関連する物事に対する発言には、学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を認識しており、偏った見方ではあるが理解認識を深めている。</p> <p>自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明できる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換できる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。社会科学・自然科学について、幅広く学んでいる。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を認識し、日常の生活に転用・応用している。物事に多面的な関係性があることを認識しており、学んでいない他の領域への関心を持って、自ら幅広い視野をもって理解を深めている。関連する物事に対する発言内容には、学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を認識し、探求心をもって理解認識を深めている。</p> <p>自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用するができ、結論は入念で洞察に富むものである。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。</p> |
| <p>3) 将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義・関連への理解を深めることができる。</p> <p>① 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。</p> <p>② 職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。</p> | <p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることをあまり意識していない。学習内容ほか新聞記事やニュースなどの日常的話題や基礎知識と、実際の自分との関連性を時々考えることがある。</p> | <p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性や自己との関係性について意識している。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性を認識している。</p> | <p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識などの汎用的知識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性や自己との関係性を理解するに足っていない。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性に気づき、部分的に知識の獲得に努めている。</p> | <p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができ、自己との関係性を改めて意識し、自己との関係性を理解している。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識などの汎用的知識が必要であることを理解しており、授業外での活動で教養を深めている。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題において、一般常識・教養の自分との関連性を認識し、日頃から知識を獲得している。</p> |
| 【社会人としての汎用的能力】(技能・表現) | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン | | キャップストーン Level 4 |
| <p>1) 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち少なくとも1つは日常活用において不自由ないレベルにある。学修は授業のなかで完結している。日常に活用するまででないが、授業外の活動で部分的に活用している。</p> <p>テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、最低限の注意は払うことができる。用語法を誤ったりするが、基本的構成や提示において一貫した体系を使うように気をつけている。話において、中心的なメッセージは推測してもらえ、プレゼンテーションは構造的なパターンを部分的にはつくれる。自分の話し方は、まだ相手の理解の妨げとなつていくと考えられる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は、問題の完全な解決をするために要求された分析の一部分は示すことができる。論拠は整理することができるが、その整理は、重要なパターン、違い、類似性を明らかにするには十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完遂できる。結果である科学・数学的表現(式、グラフ、図、表、言葉)は部分的には適切あるいは正確に表現できる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち3つは日常活用において不自由ないレベルにある。継続的ではないが、学修は授業内だけでなく、関心をもって学修・活用に努めている。</p> <p>テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を複数に用いる。与えられた課題に明確に焦点をあてており、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用できる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージを明確に伝えることができ、プレゼンテーションは一貫した構造的なパターンでつくれることができる。自分の話し方によって、相手に興味深さを与えることができる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。行われた分析は基本的に全て成功しており、十分に問題解決できる。また、分析プロセスは明快である。論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察に富んだパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既知の事柄のことから推定することができる。適切な情報を、さらに進んだ、あるいはさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。</p> |
| <p>2) 自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。計算などの分析を試みている。論拠を並べることができるが、整理し、問題の焦点と関連付けはしていない。結論はあいまいで、筋が通らないことがある。単純に情報の変換は完遂できる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は、問題の完全な解決をするために要求された分析の一部分は示すことができる。論拠は整理することができるが、その整理は、重要なパターン、違い、類似性を明らかにするには十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完遂できる。結果である科学・数学的表現(式、グラフ、図、表、言葉)は部分的には適切あるいは正確に表現できる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。行われた分析は基本的に全て成功しており、十分に問題解決できる。また、分析プロセスは明快である。論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察に富んだパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既知の事柄のことから推定することができる。適切な情報を、さらに進んだ、あるいはさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。</p> | <p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。行われた分析は基本的に全て成功しており、十分に問題解決できる。また、分析プロセスは明快である。論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察に富んだパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既知の事柄のことから推定することができる。適切な情報を、さらに進んだ、あるいはさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。</p> |
| <p>3) 将来社会生活・職業生活に必要な基礎的スキルを身につけ、問題を発見し解決することができる。</p> <p>① 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。</p> <p>② 情報や知識を複眼的、論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。</p> <p>③ 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。</p> <p>④ 職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成。必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。</p> | <p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT(情報通信技術)の基本的ツールを、十分ではないが利用することができる。情報は、自分の偏った見方から収集しており、また系統立ててまとめまでには至らないと言える。あるいは、課題の意図に沿わない情報を含めている。課題に対する結果の内容は、論理性がなく、あいまいである。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付けたが、授業外でわずかに転用・応用できている。</p> | <p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができるが、効果的に活用できているとは言えない。収集された情報は、ある一定の範囲から収集されており、系統立てられるものである。結果の内容は、課題の意図に沿ってある程度までまとまりをもって整理できている。文章には部分的に論理性を欠く内容が含まれる。興味まで至らないが、課題解決のなかから、自己の行動の範囲で問題を見出すことが少しはできる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、部分的だが授業外で転用・応用できている。</p> | <p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができる。効果的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲をある一定の深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿ってある程度の深さをもって論議することができる。文章は論理性があり、明確にできる。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から問題を見出し、解決を試みることができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外でも応用できている。授業外に諸々の技能検定資格等について、今後の必要性を感じており、諸々の資格取得を考えている。</p> | <p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができる。効果的かつ発展的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲を十分な深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿って十分な深さをもって論じており、文章は論理性があり、明確にできる。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から諸問題を発見し、解決策を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外にも応用するほか、発展的に学んでいる。授業外の諸々の技能検定資格等において、今後の必要性を感じ、実際に資格取得に向けた学修を自ら行っているか、あるいは取得している。</p> |
| 【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力) | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン | | キャップストーン Level 4 |
| <p>1) 物事に進んで取り組み、他人との協調のなかで行動することができる。</p> <p>① 物事に進んで取り組み行動することができる。</p> <p>② 他人に働きかけを行い、巻き込みながら行動することができる。</p> | <p>与えられた課題や活動に参加することができる。チームの考えや意見などを共有するが、受動的に受入れている。他のメンバーから促されることで発言でき、意見を傾聴することでグループ活動に参加できる。</p> | <p>与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底的に、包括的プロジェクトを推進させるものである。対立する考えや意見から離れ、共通する基盤や当座の課題に目を向け直すことができる。他のメンバーの見方を言い直すか、明確にその質問をすることなどで、話し合いを促進することができる。</p> | <p>与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底的、包括的であり、プロジェクトを推進させるものである。対立する考えや意見を認識し、把握したうえで取組みを続けることができる。他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進することで、他のメンバーをチームの活動に参加させることができる。</p> | <p>与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底的、包括的であり、プロジェクトを推進させるものである。他のメンバーが与えられた課題を自分と同じレベルで完遂できるように率先して助けることができる。破壊的な対立する考えや意見において、直接言及し、チーム全体の結束を効果的に高めるやり方で、対立し取組み解決することを建設的に助けることができる。参加していないメンバーに気づき、参加を促すとともに、他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進することで、チームの活動に参加させることができる。</p> |

| | | | | |
|---|--|--|---|--|
| <p>2) 目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。</p> | <p>与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。</p> | <p>与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。明確な自らの目的はまだ見出せるまででないが、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを少しは考えられる。</p> | <p>与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。行動の証を示せるまででないが、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定できている。</p> | <p>与えられた課題や活動の目的を理解し、取り組むことができる。課題や活動のなかに自己の将来設計とのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定でき、それに対する行動の証を示すことができる。</p> |
| <p>3) 獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。</p> <p>① 経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。</p> <p>② これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。</p> | <p>与えられた課題や活動をその授業の学修内容だけで解決している。経験や知識は、その授業以外のこととは連続しない個々のものとして捉えている。</p> | <p>与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方をするまでには至らない。</p> | <p>与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出し、連続する総合的な見方ができるが、自ら立てた課題を解決できるまでには至っていない。</p> | <p>与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出し、連続する総合的な見方ができている。自ら立てた課題の解決がされており、新しい価値を見出している。</p> |

【生活福祉学科】専門的能力要素の到達目標に対する学修成果の評価指標

到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

| 【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性) | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン | | キャップストーン Level 4 以上 |
|--|--|--|---|---|
| | | Level 2 | Level 3 | |
| <p>1) 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。</p> <p>① 相手の立場を理解し共感・受容できる。</p> <p>・豊かな感性、社会人としてのマナーを身につける。</p> <p>・人間に対する深い洞察力をもつことができる。</p> <p>② 介護を必要とする人を全人的に理解することができる。</p> <p>・介護を必要とする人やその家族の心理を理解できる。</p> | <p>豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつことは、まだ十分とはいえないが、社会人としてのマナーについては少しは身につけている。介護を必要とする人やその家族の心理を理解できるように努めている。</p> | <p>豊かな感性、社会人としてのマナーについてある程度は身につけている。人間に対する深い洞察力について少しはもつことができる。介護を必要とする人やその家族の心理について少しは理解できる。</p> | <p>豊かな感性、社会人としてのマナーについてだいたい身につけている。人間に対する深い洞察力についてだいたいもつことができる。介護を必要とする人やその家族の心理をまあまあ理解できる。</p> | <p>豊かな感性、社会人としてのマナーについては十分身につけることができる。人間に対する深い洞察力をもつことができる。介護を必要とする人やその家族の心理を理解できる。</p> |
| <p>2) 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。</p> <p>① 保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について理解できる。</p> <p>・組織における報告・連絡・相談の必要性を理解できる。</p> <p>② 関連する他職種連携の意義と目的を理解し説明できる。</p> <p>・施設・在宅におけるチームアプローチの方法、ケアマネジメントについて理解できる。</p> | <p>保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について少しは理解できる。組織における報告・連絡・相談の必要性についてある程度は理解できる。施設、在宅におけるチームアプローチの方法、ケアマネジメントについての理解は十分とはいえないが、関連する他職種連携の意義と目的について少しは理解し説明ができる。</p> | <p>保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割についておおよ理解できる。組織における報告・連絡・相談の必要性はだいたい理解できる。関連する他職種連携の意義と目的についてはある程度は理解し説明できる。施設・在宅におけるチームアプローチの方法、ケアマネジメントについてはまあまあ理解できる。</p> | <p>保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について理解できる。組織における報告・連絡・相談の必要性を理解できる。関連する他職種連携の意義と目的をおおよ理解し説明できる。施設・在宅におけるチームアプローチの方法、ケアマネジメントについてほとんど理解できる。</p> | <p>多職種の機能、役割について十分理解し、協働によるチームアプローチの必要性が理解できる。組織における報告・連絡・相談の必要性を十分理解できる。関連する他職種連携の意義と目的を十分理解し説明できる。施設・在宅におけるチームアプローチの方法、ケアマネジメントについては十分理解できる。</p> |
| <p>3) 人権擁護の視点、職業倫理を身につける。</p> <p>① 人間に対する尊敬を保持し、自立(律)した生活を支える必要性について少しは理解できる。権利擁護のしくみについて少しは理解できる。倫理綱領についての理解は十分とはいえないが、介護福祉士の義務規定は理解できる。</p> <p>② 介護福祉士としての職業倫理を理解できる。</p> <p>・介護福祉士の義務規定を理解できる。</p> <p>・介護福祉士の倫理綱領を理解できる。</p> | <p>人間に対する尊敬を保持し、自立(律)した生活を支える必要性について少しは理解できる。権利擁護のしくみについて少しは理解できる。倫理綱領についての理解は十分とはいえないが、介護福祉士の義務規定は理解できる。</p> | <p>人間に対する尊敬を保持し、自立(律)した生活を支える必要性についてある程度は理解できる。権利擁護のしくみはまあまあ理解できる。介護福祉士の義務規定及び倫理綱領についてある程度は理解できる。</p> | <p>人間に対する尊敬を保持し、自立(律)した生活を支える必要性についてだいたい理解できる。権利擁護のしくみはだいたい理解できる。介護福祉士の義務規定及び倫理綱領について概ね理解できる。</p> | <p>人間に対する尊敬を保持し、自立(律)した生活を支える必要性について十分理解できる。権利擁護のしくみが理解できる。介護福祉士としての職業倫理及び義務規定について十分理解できる。</p> |
| 【教養ある専門職業人としての基礎力】(知識・理解) | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン | | キャップストーン Level 4 以上 |
| | | 2 | 3 | |
| <p>1) あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識、技術を習得する。</p> <p>① 生活の概念や生活支援の考え方を理解し、説明できる。</p> <p>・自立に向けた日常生活における生活支援技術の知識や方法を理解できる。</p> <p>・介護予防の必要性を理解し、介護予防に関する知識や方法を理解できる。</p> <p>・自立に向けた生活援助(家事援助)の知識や方法を理解できる。</p> <p>・介護に必要な医学的な知識や心理について理解できる。</p> <p>② 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる。</p> <p>・介護保険制度を理解できる。</p> <p>・障害者総合支援法を理解できる。</p> <p>・ケアマネジメントのシステムについて理解できる。</p> <p>・介護に関連するその他の制度・施策が理解できる。</p> | <p>生活の概念や生活支援の考え方について少しは理解し、説明できる。日常生活における生活支援技術の方法は十分にできるとはいえないが、自立に向けた知識は理解できる。介護予防の必要性、介護予防に関する知識の理解やその方法についてはある程度理解できる。自立に向けた生活援助(家事援助)の知識については少しは理解できる。自立に向けた生活援助(家事援助)の方法は十分にできるとはいえないが、知識については理解できる。介護に必要な医学的な知識や心理について少しは理解できる。介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策についての理解は十分とはいえないが、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法についてはある程度理解できる。</p> | <p>生活の概念や生活支援の考え方についてある程度は理解し、説明できる。自立に向けた日常生活における生活支援技術の知識の理解やその方法について、ある程度はできる。介護予防の必要性、介護予防に関する知識の理解やその方法についてはある程度理解できる。自立に向けた生活援助(家事援助)の知識についてはだいたい理解できる。介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法についてはある程度理解できる。</p> | <p>生活の概念や生活支援の考え方について概ね理解し、説明できる。自立に向けた日常生活における生活支援技術の知識の理解やその方法について、だいたいできる。介護予防の必要性、介護予防に関する知識や方法について概ね理解できる。自立に向けた生活援助(家事援助)の知識については概ね理解できる。介護に必要な医学的な知識や心理について概ね理解できる。介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法については概ね理解できる。介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策について概ね理解できる。</p> | <p>生活の概念や生活支援の考え方について理解し、説明できる。自立に向けた日常生活における生活支援技術の知識の理解やその方法について、十分できる。介護予防の必要性、介護予防に関する知識を理解し、その方法ができる。自立に向けた生活援助(家事援助)の知識について理解し、その方法についてもできる。介護に必要な医学的な知識や心理について理解できる。介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法について理解できる。介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策について理解できる。</p> |
| <p>2) 介護実践の根拠を理解する。</p> <p>・介護過程の意義と目的が理解できる。</p> <p>・アセスメントの必要性が理解できる。</p> <p>・利用者に適したアセスメントができる。</p> <p>・介護が支援することにより利用者の生活における将来の予測について説明できる。</p> <p>・アセスメントに基づいた介護計画が立案できる。</p> <p>・介護実践に際し、その根拠が説明できる。</p> | <p>介護過程の意義と目的についてある程度は理解できる。アセスメントに基づいた介護計画の立案はできないが、アセスメントの必要性の理解、及び利用者に適したアセスメントについてある程度はできる。介護が支援することにより利用者の生活における将来の予測について少しは説明できる。アセスメントに基づいた介護計画の立案はできるとはいえない。介護実践に際し、その根拠についてある程度は説明できる。</p> | <p>介護過程の意義と目的についてまあまあ理解できる。アセスメントの必要性の理解、及び利用者に適したアセスメントがだいたいできる。介護が支援することにより利用者の生活における将来の予測についてある程度説明できる。アセスメントに基づいた介護計画の立案はだいたいできる。介護実践に際し、その根拠についてだいたい説明できる。</p> | <p>介護過程の意義と目的について概ね理解できる。アセスメントの必要性の理解、及び利用者に適したアセスメントが概ねできる。介護が支援することにより利用者の生活における将来の予測について概ね説明できる。アセスメントに基づいた介護計画の立案は概ねできる。介護実践に際し、その根拠について概ね説明できる。</p> | <p>介護過程の意義と目的について理解し説明できる。アセスメントの必要性の理解、及び利用者に適したアセスメントができる。介護が支援することにより利用者の生活における将来の予測について説明できる。アセスメントに基づいた介護計画の立案はできる。介護実践に際し、その根拠について説明できる。</p> |
| <p>3) 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p> <p>・ICFについて理解できる。</p> <p>・自立に向けた自助具・福祉用具を活用できるための知識や方法を理解できる。</p> <p>・利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法を理解できる。</p> | <p>ICFについて少しは理解できる。自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための方法は十分理解できるとはいえないが、知識については理解できる。利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について少し理解できる。</p> | <p>ICFについてある程度は理解できる。自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識について理解でき、その方法についてもある程度理解できる。利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法についてある程度は理解できる。</p> | <p>ICFについて概ね理解できる。自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識について概ね理解できる。利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について概ね理解できる。</p> | <p>ICFについて理解できる。自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識を理解し、その方法についても十分理解できる。利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について理解できる。</p> |
| 【専門職業人としての汎用的能力】(技能・表現) | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン | | キャップストーン Level 4 以上 |
| | | 2 | 3 | |
| <p>1) 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。</p> <p>・言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要を理解できる。</p> <p>・利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。</p> <p>・形態別にコミュニケーションがとれるための知識・技術を習得し実践できる。</p> <p>・チームケアに必要なコミュニケーションの技法を習得し実践できる。</p> | <p>利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることはまだ不十分であるが、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についてある程度は理解できる。形態別コミュニケーション及びチームケアに必要なコミュニケーションの実践は難しいが、知識・技術は習得している。</p> | <p>言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についてだいたい理解できる。利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることは、少しはできる。形態別コミュニケーション及びチームケアに必要なコミュニケーションをとるための知識・技術を習得し、ある程度は実践できる。</p> | <p>言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要について概ね理解できる。利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることはある程度はできる。形態別コミュニケーション及びチームケアに必要なコミュニケーションをとるための知識・技術を習得し、概ね実践できる。</p> | <p>言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要について十分理解できる。利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。形態別コミュニケーション及びチームケアに必要なコミュニケーションをとるための知識・技術を習得し、実践できる。</p> |
| <p>2) 利用者の情報を収集・分析し、介護計画作成、実践、評価ができる。</p> <p>・介護過程の一連の流れを説明できる。</p> <p>・在宅と施設の介護過程の相違を説明できる。</p> <p>・記録の必要性を理解し、的確な記録・記述ができる。</p> <p>・5W1Hを念頭に入れて記録することができる。</p> <p>・パソコンを介護業務に活用することができる。</p> | <p>在宅と施設の介護過程の相違についての説明はできないが、介護過程の一連の流れについて少しは説明できる。的確な記録・記述については十分にできるとはいえないが、記録の必要性を理解はできる。パソコンを介護業務に活用することはまだ十分とはいえないが、5W1Hを念頭に入れて記録することについて少しはできる。</p> | <p>介護過程の一連の流れについてある程度説明できる。在宅と施設の介護過程の相違についての説明はある程度はできる。記録の必要性を理解、及び的確な記録・記述についてある程度はできる。5W1Hを念頭に入れて記録することについてある程度はできる。パソコンを介護業務に活用することについてある程度はできる。</p> | <p>介護過程の一連の流れについて概ね説明できる。在宅と施設の介護過程の相違について概ね説明できる。記録の必要性を理解、及び的確な記録・記述について概ねできる。5W1Hを念頭に入れて記録することについて概ねできる。パソコンを介護業務に活用することについて概ねできる。</p> | <p>介護過程の一連の流れについて説明できる。在宅と施設の介護過程の相違について説明できる。記録の必要性を理解、及び的確な記録・記述ができる。5W1Hを念頭に入れて記録することができる。パソコンを介護業務に活用できる。</p> |
| <p>3) 利用者の生活状況に応じ、自立に向けた介護支援技術を習得し、実践できる。</p> <p>① 利用者の生活実態や状態の変化を的確に捉え、生活上のニーズを把握することができる。</p> <p>・利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方を理解できる。</p> | <p>利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については少し理解できる。利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について少しは活用できる。行った介護について記録や報告の方法が的確にできるとはいえないが、少しはできる。行った介護を振り返り、次の介護に活かすことについて少しはできる。介護予防や介護に関する技術について、利用者の状況に応じた実践</p> | <p>利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方についてはある程度理解できる。利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具についてある程度活用できる。行った介護について記録や報告の方法についてある程度は的確にできる。行った介護を振り返り、次の介護に活かすことについてある程度はできる。介護予防や介護に関する技術について、利用者の状況に応じた実践</p> | <p>利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については概ね理解できる。利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について概ね活用できる。行った介護について記録や報告の方法について概ね的確にできる。行った介護を振り返り、次の介護に活かすことについて概ねできる。介護予防や介護に関する技術について、利用者の状況に応じた実践は概ねできる。医療的</p> | <p>利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については理解できる。利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について活用できる。行った介護について記録や報告の方法についての確にできる。行った介護を振り返り、次の介護に活かすことについて概ねできる。介護予防や介護に関する技術について、利用者の状況に応じた実践ができる。医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸</p> |

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| ・利用者に適した、自立に向けた自動具・福祉用具を活用できる ・行った介護について記録や報告の方法が的確にできる。 ・行った介護を振り返り、次の介護に活かすことができる。 ・介護予防や介護に関する技術について、利用者の状況に応じた実践ができる。 ② 医療的ケアに関する知識と技術を習得する。 ・医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる技能を習得する。 | が少しはできる。 | はある程度できる。医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる技能について、ある程度習得している。 | ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる技能について、概ね習得している。 | 引等を安全・適切に行うことができる技能について習得している。 |
| 【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力) | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン 2 3 | | キャップストーン Level 4 以上 |
| 1) 介護福祉士の義務規定を理解し、高い倫理性をもって行動できる。 介護福祉士の職業倫理について理解し、義務規定について遵守できる。 介護福祉士の倫理綱領を理解し実践できる。 ・権利擁護(アドボガシー)の視点をもつことができ、他職種や他機関と連携することができる。 | 介護福祉士法の定義と義務・職業倫理に遵守するには不安があるが、理解し説明はできる。権利擁護(アドボガシー)の視点を持つことや他職種や他機関と連携を図ることについては、少しは理解できる。 ※アドボガシー(利用者の代弁者) | 介護福祉士としての義務規定については理解し説明ができる。義務規定や倫理綱領ある程度は遵守することができる。権利擁護(アドボガシー)の視点や、他職種や他機関と連携することについては、ある程度はできる。 | 介護福祉士としての義務規定については理解し説明でき、義務規定や倫理綱領についても概ね遵守することができる。権利擁護(アドボガシー)の視点をもつことができ、他職種や他機関との連携に関しても概ねできる。 | 介護福祉士としての義務規定や倫理綱領について理解し、遵守することができる。権利擁護(アドボガシー)の視点もち、利用者の代弁者として他職種や他機関と連携することができる。 |
| 2) 利用者本位のサービスを提供することができる。 ①相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点をもって行動できる。 形態別に対応できるための生活支援の知識や方法を習得し、実践できる。 利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことができる。 ②利用者ひとり一人の生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につけ、実践できる。 ・ICFの視点で、利用者の情報収集、および生活上のニーズの把握が適切にできる。 ・ニーズに即した介護計画作成ができる。 ・介護計画に沿った実施、評価ができる。 | 利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つまでは至っていないが、相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点をもって少しは行動できる。形態別に対応できるための生活支援の知識や方法について、少しは実践できる。利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つまでは至っていない。ニーズに即した介護計画作成、及び介護計画に沿った実施、評価は、まだ十分にはできないが、ICFの視点で、利用者の情報収集、および生活上のニーズの把握についてはある程度できる。 | 相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点をもって行動できる。形態別に対応できるための生活支援の知識や方法について、概ね実践できる。利用者の尊厳を保持し、介護福祉士として概ね介護観を持つことができる。ICFの視点で、利用者の情報収集、および生活上のニーズの把握ができて、ニーズに即した介護計画作成、及び介護計画に沿った実施、評価についても、概ねできる。 | 相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点をもって概ね行動することができる。形態別に対応できるための生活支援の知識や方法について、概ね実践できる。利用者の尊厳を保持し、介護福祉士として概ね介護観を持つことができる。ICFの視点で、利用者の情報収集、および生活上のニーズの把握ができて、ニーズに即した介護計画作成、及び介護計画に沿った実施、評価についても、概ねできる。 | 相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点をもって行動することができる。形態別に対応できるための生活支援の知識や方法について実践できる。利用者の尊厳を保持し、介護福祉士として介護観を持つことができ、ICFの視点で、利用者の情報収集、および生活上のニーズの把握ができて、ニーズに即した介護計画作成、及び介護計画に沿った実施、評価ができる。 |
| 3) 他職種の役割を理解し、チームに参画することができる。 ・他職種の役割が理解できる。 ・報告・連絡・相談ができる。 ・チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。 ・介護福祉士としての意見を述べることができる。 ・リーダーシップをとることができる。 | チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることはまだできるとはいえないが、他職種の役割や報告・連絡・相談の必要性は理解している。チーム内で意見を述べるには不安があるが、介護福祉士としての意見はある。リーダーシップをとることに自信がないが、少しはできる。 | 他職種の役割を理解し、報告・連絡・相談についてある程度はできる。チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチはある程度は図ることができる。介護福祉士としての意見は述べることができる。同僚・他職種とのチーム内では自信がない。 | 他職種の役割を理解し、報告・連絡・相談についても概ねできる。チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを概ね図ることができる。介護福祉士としての意見を述べることができる。同僚・他職種とのチーム内でも概ねリーダーシップをとることができる。 | 他職種の役割を理解し、報告・連絡・相談についてもできる。チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。介護福祉士としての意見を述べることができる。同僚・他職種とのチーム内でもリーダーシップをとることができる。 |

西九州大学短期大学部(学位授与方針)の到達目標に対する学修成果の評価指標 ※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| I 【主体的・自立的に行動できる 確かな人間力】 | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン Level 2 Level 3 | | キャップストーン Level 4 |
| ① 自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。 | 規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。 | 規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。 | 規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握している。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。 | 自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分でき、継続して良好な健康を維持できている。 |
| ② 自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。 | 社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。 | 社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性のある程度把握できている。 | 社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、不十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。 | 社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されてもこれらを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。 |
| ③ 主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。 | グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切りまでに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。 | グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切りまでに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。 | グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題を締切りまでに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。 | グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題を締切りまでに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。 |
| ④ 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つめ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。 | 種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民意識の感覚からではないが、自分のなかで活動の意味を見つめ直すことを考え始めている。 | 種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかをはっきり述べるができる。 | 多様な市民的活動に積極的に参加し、かつ継続的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動からは、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分の活動について、目標設定や遂行への省察や分析を行い、何を学んだかをはっきり述べることができる。 |
| ⑤ 生涯にわたって自律・自立して学習できる。 | 与えられた課題等を仕上げるることができる。授業の到達目標を考え、そして知識の追求に興味を持てる。その探求レベルはまだ浅いと言える。 | 与えられた課題等を仕上げるることができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持てる。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。 | 与えられた課題等に興味を持って探究することができる。仕上げるることができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外での異なる状況に応用することができる。その成果を示すことができる。 | 与えられた課題等に強い興味を持って探究することができる。仕上げるることができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。 |
| II 【教養ある専門職業人としての 基礎力】 | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン Level 2 Level 3 | | キャップストーン Level 4 |
| ① 社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。 | 修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し始めている。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。 | 修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりについて意識し始めている。 | 修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能の学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができる。 | 修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。 |
| ② 専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。 | 修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限達成している。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。 | 修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限達成しており、それらのつながりについて体系的に理解し始めている。 | 修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。 | 修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に獲得する必要性を理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。 |
| ③ 上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。 | 自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と、自分の興味とのつながりを見出している、学問的な関係性を把握している。修得した知識・技能を新しい状況で用いようと試みている。 | 自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認めている。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。 | 修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を考えたうえで、学問分野の個々の学修を達成している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。 | 学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意識深く統合できる。修得した知識・技能を、難しい問題の解決や、複雑な課題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。 |
| III 【社会人としての汎用的能力】 | ベンチマーク Level 1 | マイルストーン Level 2 Level 3 | | キャップストーン Level 4 |
| ① 確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。 | 修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限は注意を払い、基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何とか伝えることができる。構成がなっていないが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとなっていないと考えられる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。 | 修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、幾つかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができていない。 | 修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成ができる。話術においては、相手興味深く聞いてくれる。 | 修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行することができる。文章の誤りは殆どない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得的である。相手の反応から自信を持って対応することができる。 |

